

戦艦大和（其之一）（相原泥舟）

威容海を圧して宛ら城の如く

巨艦堂々浪を砕いて征く

国難に遭逢して悲劇を演ずるも

長えに戦史に伝う大和の名は

威容壓海宛如城 巨艦堂堂碎浪征
國難遭逢演悲劇 長傳戦史大和名

解説 姉妹艦「武蔵」と共に世界最強を誇った戦艦「大和」をたたえた詩。

語釈 ※威容Ⅱりっぱで威厳のある様子。 ※宛Ⅱ非常によく似ているさま。まるで。そっくり。 ※巨艦Ⅱ非常に大きな軍艦。 ※国難Ⅱ国家の危難。 ※遭逢Ⅱ出会うこと。めぐりあうこと。遭遇。 ※悲劇Ⅱ人生の不幸。破滅、敗北、苦悩。 ※長Ⅱながく変わらないさま。永久不変であるさま。

通釈 その海面を圧するような威容は、あたかも海に浮かぶ城のようであり、その堂々たる雄姿は、命令一下、万里の波濤を砕いて征くのである。太平洋戦争という国難に遭い、戦争末期に水上特攻として沖繩に向けて出撃したが、米海軍艦載機の猛攻撃を受け、遂に昭和二十年四月七日、鹿児島県南方海上において悲劇的最期を迎える事となつてしまったのは誠に惜しまれるが、その壮絶な戦いぶりと共に、大和の名はいつ迄も日本海戦史上に語り伝えられているのである。